



編集 SEF 事務局
 連絡先 080-8865-0951
 URL <http://sef-jpn.org>

巻頭のことば コロナ禍後の社会変化

理事 白崎善宏

2009 年 12 月に始まったコロナ禍も、丸 4 年経過しようやく落ちついてきたように見えます。コロナ禍がもたらした大きなうねり、社会変化を見直し、これから何をすべきかを考える時期になったと思います。変化もプラスの面とマイナス面の両方がありますが、その見方は NHK の調査では若い世代が中年以上の世代より肯定的にとらえているようです。変化のなかで関心が強いのは「テレワークの普及」です。現在でも 20~30% の人がなんらかのテレワークをしているようです(ピーク時は東京都 50% くらい)。テレワークは単に勤務形態が変わったのみならず、ワークライフバランスを考えるようになり、企業によっては副業に対する関心も高まっているようで、会社への貢献意識、就業満足度は上がっているようです。さらに、こうした流れは人間関係にも影響し、義理や形式的な付き合いが減少しているようです。その結果、家族との触れ合いも多くなったようです。また消費の面でも実物を確認しないでインターネットだけで完結するショッピングが増え、単に「安さ」よりも、多くの情報を収集して自分が気に入った「付加価値に対して対価」を払う傾向が増えてきたようです。当然家族の健康に対する不安の増加等のマイナス面もいろいろありますが、全般的に生活満足度は上がっているようです。こうしたことが、若い世代での肯定的にとらえる人が多いのでしょう。電車の中でも意外とマスクをしている若者が多いのを見ると、海外とも違う日本のコロナ禍への対応が見られます。中年以上の世代はどうでしょうか、一度考えてみましょう。

事業報告 (特命事項)

担当理事 黒澤東雄

NPO 組織である SEF は、その事業や活動を通して会員が遣り甲斐や充実感を得られる事を目指しています。そして産業界や地域社会から、我々の方針や活動が役に立ち社会にも貢献していると評価されることも重要です。このような視点で組織全体を見渡し運営の活性化に繋がる新しい事業や活動を提案する事がここでの役割です。「子供向けロボット教室」の企画・開催の提案が一例として示せます。一昨年中に計画と調査を進め、SEF には技術的及び人材的な資源が備わっており問題なくこの計画を進められるとの結論を得ました。しかし生徒集めや教室開催のための細々とした運営の諸項目に関しては会員の中に実務の経験者が無く、実行の決断が出来ず一旦保留の状況にありました。最近になり会員の一人から、子供達に理科実験の授業をボランティアで提供している団体が SEF の提案するロボット教室にとっても関心を持っており、共催できないかとの問い合わせが有ると知らされました。その後この団体との数回の面談を行った結果、とても実績と信頼があることが分かり、現在は共催の為の細部の確認を行っています。順調に協議と準備が進めば 2024 年度の前半からの実現が見通せます。別の事例として、現在 SEF では「生成 AI の活用の会」を創設し活動を進めています。生成 AI は多方面での活用が期待され、ビジネスのモデルや体系を大きく変える可能性が有ります。生成 AI の有為性と我々 SEF の会員であるシニアエキスパートが保有する多岐にわたる知識や技術そして経験やノウハウが上手く融合した時、SEF による新しい事業アイデアが提案されるのではないかと期待を抱きます。その兆候をいち早く見つけ具体化をサポートすることも今後に向けての大きな活動事項になってゆくことでしょう。皆さま方からの変わらぬ情報のご提供とご支援をよろしくお願い致します。

SEF サロン (第 132 回報告・第 133 回案内)

担当理事 白崎善宏

《 第 132 回報告 》

日時 :1 月 24 日(水) 15 時 00 分~16 時 30 分 Zoom 方式

講演題目 :「中国経済はピークアウトしたのか?~アジア経済の行方」 講師:後藤康浩先生 (亜細亜大学都市創造学部教授)
 講演概要 :中国の政治、経済を中心に世界全体の動向を多くのチャートを使用しての、わかりやすかつ有益なご講演でした。特に中国、ロシア、北朝鮮等の「大陸国家」、日本、米英仏等の「海洋国家」とインド等の「両岸国家」という視点は興味深かいお話でした。さらに、これからの中国は停滞が続き、かつ米中の確執も政治、経済にとどまらず技術、軍事面でも深まるとの見方を示されました。

《 第 133 回案内 》

日時 :3 月 13 日(水) 15 時 00 分~16 時 30 分 Zoom 方式

講演題目 :「趣味を楽しみ、外国人の友達を作ろう」 講師:森 豊 氏 (株)アイシーインターナショナルコンサルタント 代表取締役

2024 年 1 月度会員動向

事務局

会員の入退会

なし

2024 年 1 月末日現在の会員数

正会員 : 25 名、 準会員 : 48 名、

賛助会員 : 5 社